



スモールステップ



2月号

「挨拶とキャリア教育」

副校長 能瀬 圭介

本校の1日の始まりは全教員が登校してくる子供たちを玄関で迎えることから始まります。「おはよう」の挨拶がきちんとできるとお互い気持ちがよくなり、それが続けば毎日の生活が心の中から楽しいものになります。

しかし最近、私は挨拶の中身と心の表し方は努力しないと身に付かない側面もあると感じています。

挨拶というと皆さんは「おはよう」の言葉を思い浮かべるでしょう。それが自然です。これは「呼びかけ、親しさ、尊敬」の言葉で、これがないと挨拶になりません。

では、「ありがとう」という言葉はどうでしょう。声に出せているでしょうか。物をもらう、借りるだけでなく、私たちは常に周りの人にお世話になっています。その時、いつでも「ありがとう」を声に出して「お礼」を言えたら素晴らしい。心が温かくなります。「ありがとう」は感謝の挨拶です。先日、ある児童から突然言われて「ハッ」とさせられました。私とその児童のお楽しみ会のような催しに登場・参加したので、お礼をしたかったのだと思います。その時の気持ちを素直に言葉や表情で伝えられ、とても嬉しく思いました。

また、中学部の清掃班の生徒は職員室内のゴミ箱をすべて改修して、分別作業を授業の一環で行っています。その時の挨拶は「お疲れ様です」「失礼します」が共通語です。「おはよう」「ありがとう」「しつれいします」「すみません」という高等部に行くときと習うであろう挨拶のオアシスを心から伝えられる人に育ててほしいと思います。

そして、私たち大人は挨拶を交わすだけでなく、その次に続く言葉が大切だと思います。「今日は寒いね」「どうしたの?」「やった!おめでとう!できたね!」……。挨拶に続く言葉で心がつながっていくのです。先日、校内研究会で弘前大学の菊地一文先生の話をお聞きしました。その中で「たとえ言葉は発せられなくても、励まされて、認められて「ありがとう」をもらうことも十分なキャリア発達につながる」というお話でした。

早速実行です。本校はさらに一歩進んだ挨拶を推進していきたいと思っています。

